

# 松本信道先生のご退職にあたって

駒沢史学会会長

石 井 仁

松本信道先生は、令和二年（二〇二〇）三月、ご定年を迎えられ、駒澤大学をご退職されることとなりました。本学には、昭和五十一年（一九七八）四月に助手として着任され、平成七年（一九九五）四月に専任講師になられ、以来、二十五年にわたり教鞭をとられ、教育・研究とともに学科運営などに携わってこられました。心から感謝申し上げる次第です。

松本先生は、昭和四十九年（一九七四）三月に駒澤大学大学院人文科学研究科日本史学専攻修士課程を修了されました。その後、駒澤大学助手・専任講師を経て、平成十八年（二〇〇六）には准教授に昇任され、今日を迎えていらっしゃる。

松本先生のご専門は、日本古代史の研究ですが、そのなかでもとくに奈良時代およびそれ以前を中心とした仏教について研究を深められています。処女作であるご論考「奈良時代の私度僧に関する歴史的考察」の発表以来、本学歴史学科が中心となって運営している駒沢史学会の機関紙である『駒沢史学』などを拠点にして幅広い研究を発表されています。さらに、こうした研究に加えて、『日本仏教史辞典』の執筆や『秦野市史』の編纂など辞典類や地方自治体史のお仕事にも尽力されました。

1 これらのご研究のかたわら、学科運営に関しては、長年にわたり図書館委員・図書選定委員として活躍され、図書館の

充実に力を尽くされました。

また、ご研究の他にも紅茶をはじめとして趣味も多方面にわたり、夏休みなどを利用してヨーロッパなど海外へも足を運ばれていたと側聞します。いつも身軽なフアッションでキャンパスを飄々と歩かれるお姿もそうした先生のご趣味と無関係でないのかも知れないと拝察いたしております。

そして、令和二年（二〇二〇）三月、松本信道先生をお送りすることになりました。本年度をもつてご退職されることはまことに残念ではありますが、今後もご健勝でご研究を続けられるとともに、駒澤大学、そして歴史学科を見守っていただきますたく存じます。